



「まるんの家」を案内する栗山さん(右)と松原さん(左)ら。26日、広島市佐伯区

## 最期まで誰かと一緒

### ホームホスピス 広島市に開設へ

病気や障害、高齢の一人暮らしの数人が民家に集まり、最期まで家庭的に暮らしてみとられるホームホスピス「まるんの家」が、広島市佐伯区湯来町で動きだそうとされています。

ホスピスが、がんやエ

イズに限定して緩和ケア

するのと違い、ホームホ

スピスは、認知症や余命

宣告された病気などを含

めて一人暮らしが困難な

人を24時間体制でサポー

トする試み。宮崎市のN

PO法人が2004年に

開設して以降、西日本各

地に広がり、「まるんの家」

が8カ所目。中四国

では初めてです。

ホスピスの市民団体で

活動してきたがん哲学外

来コーディネーターの栗

山恵子(59)、看護師の松

原みゆき(49)両氏が女

性4人が5月に立ち上げ

た一般社団法人フッフィー

ルが運営。民家は、白砂

台団地内で空き家になっ

た2階建てを8月に借り

上げました。

栗山さんは「高齢化が

進んで孤独死が普通の社

会になったら大変です。

ボランティアなど地域の

支え合いも借りて『つい

の住み家』のモデルをつ

くりたい」と意気込みま

す。

問い合わせは070

(5522)7884フ

ッフィールまで。